

# 福はれる事業者に

## 新電力に続き水素も

### 地場産業基盤の創出支援

テレポート  
福島市

相良元章社長



アポロガス（相良元章社長）を中心とするアポログループは2015年に電力小売の「ふくしま新電力」、17年には移動式水素ステーションを營業する「ふくしまハイドロサプライ」を設立した。今年4月にはSDGs宣言をし、プラスチックを減らすための活動も始めた。

福島県は2040年ごろまでに県内1次エネルギー需要の100%以上が、最終的には地元の再

需給管理代行業者を通じて買い取りを始めることで19年度に初めて収支が黒字になった。

トトラックで、火曜日と金曜日は福島市、水曜日

福島新工社会構想の「ド」が完成した。太陽光発電などで作った電気と水から水素を製造する設備を備えている。アポロ

エネルギー研究フィールドを運営している。移動式水素ステーションは燃料電池車に水素を供給する移動式

を再生可能エネルギーから生み出す目標を掲げて

生可能エネで作られた電

気を供給することを目標

としている。同グループ

震災と原発事故で被害を

受けた地域の産業基盤創

出の原動力にするのが狙

いだ。二つの新会社は、

これらを後押ししたいと

いう思いから設立した。

ふくしま新電力は16年

ほか、県内の再生エネ發

電事業者にも調達の協力

11月に小売電気事業者の

許認可を取得し、17年2

月から営業を開始した。

供給先は現在約1200

を呼びかけ、飯館村民が

出資する飯館電力からも

電事業者にも調達の協力

県は、再生可能エネル

ギーから水素を作り水素

を利活用する「福島新工

社会構想」を打ち出し

ている。ふくしまハイド

ロサプライはこれを後押

さへたのが、回収活動のきっ

かけだ。

#### ふくしまハイドロサプライの移動式水素ステーション



技術総合研究所福島再生エネルギー研究フィールドは郡山市の産業

が、いすゞは福島水素工から仕入れたい考えだ。同グループは4月にSDGs宣言をした。持続可能な社会の実現に向けて、プラスチックを減らし環境負荷を下げるためクリアファイルの回収活動を始めた。実はグループでクリアファイルのノベルティーグッズをつくると話していた。その話し合いをしていくうちに若手社員からプラスチックを増やすようなことしていいのかと疑問の声が上がったのが、回収活動のきっかけだ。

回収ボックスをつくり小中学校に置き、家庭で不要になったクリアファイルを持ってきてもらう。回収したクリアファイルはアポログループが1枚5円で買い取る。回収したクリアファイルはオリジナルのリユースシールを貼り再利用する。グループ内で再利用するほか、再利用したい事業者を募集して再利用の輪を広げたい考えだ。